

来週の「売り物記事」はこれ



2017年3月3日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

大川小 教員遺族、6年間の葛藤

5日(日)



2011年3月11日の東日本大震災発生から間もなく6年が経過します。津波で74人の児童が死亡・行方不明となった宮城県石巻市立大川小=写真=では教職員10人も犠牲になりました。仙台市の大学3年、佐々木奏太さん(21)は2年の担任をされていて津波にのまれた父、隆芳さん(当時55歳)の一人息子です。大川小では、教職員が避難対応を協議する間、児童は校庭に約50分間待機させられました。その過失を問うた裁判で児童の遺族は勝訴しています。子どもたちを守れなかった父の無念と責任——。奏太さんはこの6年間、同じ大川小の遺族でありながらも「児童遺族」と「教員遺族」の間にある壁を感じてきました。「教員遺族の自分が震災を語っていいのか。父を失った悲しみを表していいのか」。そうした葛藤を経て、現在は被災校舎の前に立ち、児童遺族とともに語り部活動を始めた奏太さんの歩みを見つめました。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

家電の名門、いまや崖っぷち

「サザエさんの東芝」どこへ

夕刊特集ワイド 6日(月)



知っていますか? 日本初の自動式電気釜を売り出したのが「東芝」であったことを。原子力事業で巨額の損失を出し、経営危機に陥っている名門企業は、庶民になじみ深い家電製品を送り出してきました。扇風機、洗濯機、カラーテレビ……。国民的アニメ「サザエさん」にCMを提供してきたことも親しみやすいイメージにつながっているでしょう。そんな伝統を振り返りつつ、東芝の「これから」を考えます。

シリーズ憲法70年 参院改革を考える

オピニオン面 [論点] 8日(水)

憲法施行70年を迎えるなか、「憲法改正」は次第に現実味を帯びています。いよいよ衆院の憲法調査会が16日から始まります。焦点は何も「9条」ばかりではありません。参院改革にも注目が集まろうとしています。「良識の府」「再考の府」と呼ばれたのは今や昔。ねじれ国会への批判から時に、「参院不要論」も論じられます。参院改革の課題を識者らに聞きました。



時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

震災企画 「食」はいま くらしナビA面 9日(木)から3回



東京電力福島第1原発事故の放射能汚染は「食」に甚大な影響を与えました。被災地の生産者は今も被害に苦しんでいます。そんな中、昨年9月に福島県沖でヒラメの試験操業が始まりました。記者が漁船に同乗し、漁師の思いを聞きました。アイガモ農法のコメ農家や、出荷制限が続く山菜の現場も訪ねました。

おすすめの丼物

くらしナビA面 7日(火)

何かと忙しい年度末。食卓のお助けメニューといえば丼物です。冷蔵庫の余りものも活用できます。たとえば親子丼。余分な皮や脂を捨てずに焼き、うまみの濃い脂を出します。これで肉をサッと焼いて煮ればコクが増し、だしは昆布だけで十分。鶏鍋の後の雑炊に似た味わいになります。素材を無駄なく生かす料理研究家の河合真理さんに教えてもらいました。



加藤登紀子・広末涼子対談 おんたのしんぶん 6日(月)



女優の広末涼子さんはパートナーのキャンドルジュンさんと東日本大震災の復興支援活動が続けています。最初は不安があったといいます。「歌手なら歌うことができますが、役者はカメラと台本とスタッフがいないと何もできない。申し訳なくて」。しかし、行ってみると涙を流して喜んでくれる人がいました。女優業や子育てについても語り合いました。